

# 犬の卵巣子宮摘出術におけるマロピタントによる モルヒネ誘発性の悪心、嘔吐と PONV の抑制効果

岡野公禎<sup>†</sup> 河内由紀 上原ひかり 田近 萌

横浜市 開業（おかの動物病院：〒234-0054 横浜市港南区港南台5-20-3）

（2022年10月3日受付・2023年1月12日受理・2023年6月27日公開）



本文はこちら  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/76/6/76\\_e177/\\_article/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/76/6/76_e177/_article/-char/ja)

## 要 約

卵巣子宮摘出術の術前にモルヒネを皮下投与した供試犬60頭を、マロピタントを経口投与した2群（MP2群：n=15, 2mg/kg; MP8群：n=15, 8mg/kg）、皮下投与群（MS1群：n=15, 1mg/kg）及び生理食塩水を皮下投与した対照群（Control群：n=15, 0.1ml/kg）の4群に分類した。悪心や嘔吐を麻酔導入前と抜管後で、PONV（postoperative nausea and vomiting）スコアを抜管後で評価した。導入前の嘔吐はMP2群、MP8群、MS1群で、悪心はMP8群で有意に減少した（ $P<0.05$ ）。抜管後は、MP8群が有意な悪心抑制とPONVスコアの改善を示した（ $P<0.05$ ）。マロピタントの経口投与はモルヒネによる嘔吐に対し皮下投与と同様な制吐作用を有し、8mg/kgの経口投与では悪心及びPONVに対し十分な抑制効果を示した。——キーワード：マロピタント、モルヒネ、悪心、PONV、嘔吐。

-----日獣会誌 76, e177～e182 (2023)